

毒物劇物危害防止規定モデル (輸送業編)

三重県医療保健部薬務感染症対策課

はじめに

「毒物劇物危害防止規定」は、毒物劇物による保健衛生上の危害を防止することを目的とした事業者の自主的な規範であり、事業所ごとに作成していただくものです。三重県では、これまでに危害防止規定作成例を対象事業者の皆様へ配布し、その作成、取り組みをお願いしてきたところですが、今般、平成18年度及び平成19年度厚生労働科学研究費補助金（化学物質リスク研究事業）「毒物劇物の事例解析に基づく安全管理創生に関する研究」の毒物劇物危害防止規定モデルを活用させていただき、本書を作成いたしました。つきましては、既存作成例とあわせて本書を危害防止規定の作成や見直しにご活用いただければ幸いです。

また、三重県では毒物劇物を取り扱う皆様を対象に毒物劇物安全対策講習会の開催や、激甚災害時における毒物劇物による健康被害のリスクを軽減する目的で、その保有状況調査等を実施しております。今後も本県の取り組みにご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。

三重県医療保健部薬務感染症対策課長

－ 作成にあたって －

危害防止規定は毒物劇物を取り扱われる事業者の自主的な規範です。その目的は、自主的に、活動方針、遵守事項等の具体的項目などを定めて、事業管理者や従事者の毒物劇物の管理や責任体制を明確にすることにより、毒物劇物による危害を防止することにあります。

事業所により、製造・販売・輸送・業務上取り扱い等の業態や、取り扱う毒物劇物の種類や、作業手順、想定される危害等が異なりますので、危害防止規定の作成にあたっては、各事業所の状況を十分考慮、反映し、必要に応じて、不要な項目の削除や項目の追加を行っていただくようお願いいたします。

また、危害防止規定は、それを作成することが目的ではなく、その規定を運用、機能させてこそはじめて、その意義が生じます。作成後は、事業所内の従事者等に周知徹底し、適切な運用を行っていただきますようお願いいたします。

目 次

I 危害防止規定モデル（輸送業編）	1
第1章 総則	
1.1 目的	5
1.2 適用法令	5
1.3 定義	5
1.4 適用範囲	6
1.5 遵守義務	6
第2章 毒物劇物安全管理体制等	
2.1 毒物劇物の方針	6
2.2 管理目標の設定	7
2.3 危険又は有害要因の特定	7
2.4 毒物劇物危害防止管理計画の作成	7
2.5 安全管理組織	7
2.6 管理者等の選任と職務	8
2.7 安全管理計画の実施	9
第3章 安全管理	
3.1 安全管理	9
3.2 機器類の管理	10
3.3 立ち入り制限	11
3.4 盗難、紛失の防止	11
3.5 飛散、流出防止	12
3.6 除害設備	12
3.7 火気使用の制限	12
第4章 業務管理	
4.1 業務管理	12
4.2 毒物劇物施設等の点検	13
4.3 毒物劇物施設等の管理	13
4.4 廃棄基準	14
第5章 物流	
5.1 運搬	14

第 6 章 事故発生時の措置	
6.1 関係機関への届出	15
6.2 事故発生時の連絡等	16
第 7 章 事故調査	
7.1 事故の調査・報告	16
7.2 情報の管理と活用	17
第 8 章 教育・訓練	
8.1 教育及び訓練	17
第 9 章 文書化と記録及び保管	
9.1 文書化	17
9.2 記録及び保管	17
第 10 章 監査	
10.1 監査計画の立案と実施	18
付 則	18
チェックリスト	19
II 参考資料	25
○ 毒物劇物取扱責任者の業務について (昭和 50 年 7 月 31 日 薬発第 668 号)	25
○ 毒物劇物危害防止規定について (昭和 50 年 11 月 6 日 薬安第 80 号・薬監第 134 号)	26

I 危害防止規定モデル（輸送業編）

毒物劇物危害防止規定

—輸送業—

目 次

第1章 総 則

1.1 目的	〇〇
1.2 適用法令	〇〇
1.3 定義	〇〇
1.4 適用範囲	〇〇
1.5 遵守事項	〇〇

第2章 毒物劇物安全管理体制等

2.1 毒物劇物の管理方針	〇〇
2.2 管理目標の設定	〇〇
2.3 危険又は有害要因の特定	〇〇
2.4 毒物劇物危害防止管理計画の作成	〇〇
2.5 安全管理組織	〇〇
2.6 管理者等の選任と職務	〇〇
2.7 安全管理計画の実施	〇〇

第3章 安全管理

3.1 安全管理	〇〇
3.2 機器類の管理	〇〇
3.3 立ち入り制限	〇〇
3.4 盗難、紛失の防止	〇〇
3.5 飛散、流出防止	〇〇
3.6 除害設備	〇〇
3.7 火気使用の制限	〇〇

第4章 業務管理

4.1 業務管理	〇〇
4.2 毒物劇物施設等の点検	〇〇
4.3 毒物劇物施設等の管理	〇〇
4.4 廃棄基準	〇〇

第 5 章 物流	
5.1 運 搬	〇〇
第 6 章 事故発生時の措置	
6.1 関係機関への届出	〇〇
6.2 事故発生時の連絡等	〇〇
第 7 章 事故調査	
7.1 事故の調査・報告	〇〇
7.2 情報の管理と活用	〇〇
第 8 章 教育・訓練	
8.1 教育及び訓練	〇〇
第 9 章 文書化と記録及び保管	
9.1 文書化	〇〇
9.2 記録及び保管	〇〇
第 10 章 監査	
10.1 監査計画の立案と実施	〇〇
付 則	〇〇

毒物劇物危害防止規定

－輸送業－

第1章 総則

1.1 目的

この規定は、毒物及び劇物取締法に基づき、毒物及び劇物（以下「毒物劇物」という）の販売業の登録を受けた輸送業務における安全の確保とその管理体制を明確にし、毒物劇物の取扱いにおける安全管理基準を定める。この目的を達成するため、毒物劇物事業者（以下「事業者」という）としての経営方針を明確にして、安全管理方針を定め、年度管理計画等を立案し、着実に実行する。定期的に管理状況を評価して活動事項等の改善を図ることにより、自主的危険防止活動を促進して、危害を未然に防止し、安全及び保健衛生の管理レベルの向上を図る。

1.2 適用法令

該当法規類は、毒物及び劇物取締法に関する法令（法律、政令、省令、通知）及び輸送関係法令等である。

1.3 定義

この規定において使用する用語の定義を設け、毒物及び劇物取締法において使用する用語例によるほか、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 「会社」とは、〇〇会社をいう。
- (2) 「事業所」とは、毒物劇物を取り扱う〇〇会社△△事業所をいい、「事業者」とは当該事業所の責任者（社長あるいは事業所長を想定する）をいう。
- (3) 法とは、毒物及び劇物取締法（以下「毒物劇物法」という）及び、貨物自動車運送事業法（以下「運送法」という）をいう。
- (4) 法令とは、毒物劇物法及び、それら法律の政令、省令、通知等をいう。
- (5) 「毒物劇物施設等」とは、毒物劇物法に示す毒物劇物の貯蔵所、保管所、出荷施設、消費施設、試験室及び研究室等をいう。
- (6) 「毒物劇物取扱責任者」とは、法第7条で規定された毒物劇物取扱責任者をいい、製造所、事業所又は店舗ごとに所在する都道府県知事に届けた者をいう。変更した場合も同様とする。
- (7) 「特定毒物研究者」とは、法第3条の2第1項で規定された、学術研究のため特定毒物を製造し、若しくは使用することができる者として都道府県知事の許可を受けた者をいう。
- (8) 「運行管理者」とは毒物劇物の輸送車両を運転する者を管理監督する管理者をいい、事業者が選任する。

- (9)「整備管理者」とは輸送に関わる設備を管理監督する管理者をいい事業者が選任する。
- (10)「事故」とは、毒物又は劇物が飛散し、漏れ、流れ出し、染み出し、又は地下に染み込んだ場合において、不特定又は多数の者について保健衛生上の危害が生ずる恐れがある状態をいう。
- (11)「災害」とは、火災、爆発、石油の漏洩もしくは劇物や毒物等の事故又は地震、津波等の異常な自然現象により生ずる被害をいう(石油コンビナート等災害防止 2 条第 3 号準拠)。
- (12)「緊急事態」とは火災、爆発、石油の漏洩流出及び毒物劇物等化学物質の漏洩流出、自然災害(地震、雷、津波、高潮、台風、洪水、大量の降雨・降雪等)等の発生により災害の発生する恐れがある状態をいう。
- (13) 危害とは、事故や災害の発生などにより生命や身体などを損なうような危険なことをいう。
- (14)「PDCAサイクル」とはPlan、Do、Check、Actを言い、JISQ2001に定められたリスクマネジメントの方法を指す。

1. 4 適用範囲

この規定の適用範囲は、法令に示す毒物劇物の輸送業務に携わる者又は取扱いに従事する従業員に適用する。

1. 5 遵守義務

- (1) 毒物劇物取扱業務に従事する者は、本規定に定める事項を遵守しなければならない。
- (2) この規定に定める事項は、事業者が教育訓練を繰り返し実施し周知徹底を図る。

第2章 毒物劇物安全管理体制等

2. 1 毒物劇物の管理方針

- (1) 事業者は、毒物劇物の管理方針を表明し、毒物劇物取扱業務に従事する者に周知させるとともに、危害防止に関する管理計画(以下「毒物劇物危害防止管理計画」という)を策定し、実行し、評価して次年の計画に反映させなければならない。
- (2) 事業者は、毒物劇物取扱業務に従事する者に対して、その特性をよく理解させるとともに、取扱時に毒物劇物を飛散、流出させないように教育する。また、万が一、流出、浸出や飛散した場合の措置を訓練させなければならない。
- (3) 事業者は、関係法令の遵守はもとより、安全確保を図るため、危害防止の目的を設定し、設備や取扱方法などの改善や、管理体制を充実強化し、積極的な安全教育及び訓練に努め、一般の利用者に対しても、安全意識や危害防止の啓発に努めなければならない。

2. 2 管理目標の設定

事業者は、保健衛生上の見地から安全衛生方針に基づき、次に掲げる事項を踏まえ、毒物劇物の管理目標（以下「安全衛生目標」という。）を設定し、当該目標において一定期間に達成すべき到達点を明らかとするとともに、当該目標を業務に従事する者に周知する。

2. 3 危険又は有害要因の特定

- (1) 事業者は、毒物劇物取扱いに係わる設備や毒物劇物等の化学物質等の危険性や有害性（これらを含め「有害要因」という）を特定する手順を定めるとともに、この手順に基づき、有害要因を特定するものとする。
- (2) 事業者は、法又はこれに基づく命令、事業所の基準等に基づき実施すべき事項及び前項の結果に基づき毒物劇物取扱業務者の危害を防止するため必要な措置を決定する手順を定めるとともに、この手順に基づき、実施するものとする。
- (3) 輸送ルートを選定に関して、事業者は毒物劇物を安全に輸送するため、交通混雑地域や人口密集地域、トンネル、河川等を考慮し安全な輸送ルートを選定する。
- (4) 事業者は、運行が禁止されている地域に立ち入ってはならない。
- (5) 事業者は、毒物劇物を他の荷物と混載して輸送する場合は、混載することによる危険性を十分検討し、安全が確認されてから混載すること。
- (6) 事業者は、荷主から指定された場所以外に搬入してはならない。事故等の緊急時にあっては保健所、警察又は消防等の関係機関の指示に従うとともに荷主に対して速やかにその旨連絡する。

2. 4 毒物劇物危害防止管理計画の作成

事業者は、安全衛生目標を達成するため、事業所における有害要因等の調査の結果に基づき、年間の毒物劇物危害防止管理計画を作成するものとする。また、毒物劇物の保管、輸送に関わる事項を外部に委託している場合には、法令を遵守し誠実に職務遂行していることを事業者自らが確認しなければならない。改善を要する事項がある場合には、適正に業務が遂行されていることを自ら確認するまでは、業務を委託してはならない。

2. 5 安全管理組織

事業所の毒物劇物危害防止管理計画の確実な実行と円滑な運用を図るため、管理体制を整備し、管理組織の役割と責任を明確にして管理計画を確実に実行するため「△△事業所安全管理組織図」を（図1）のとおり定める。その例を示す。

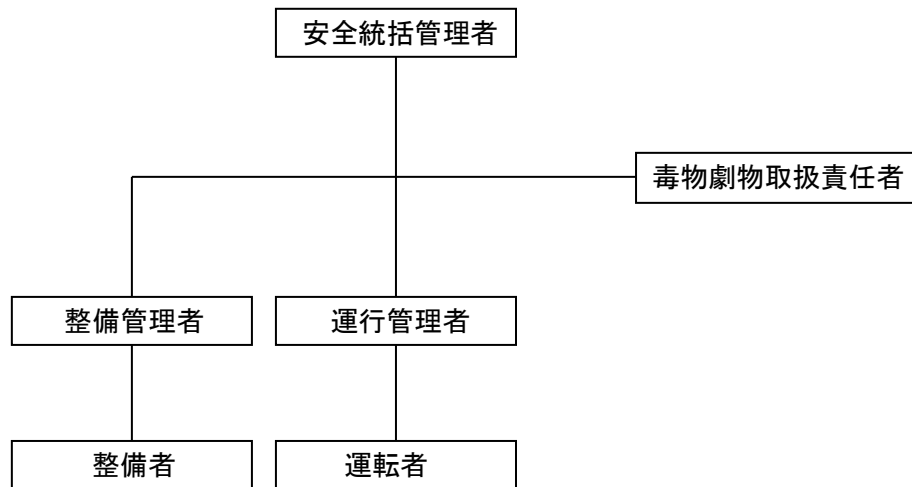


図1 △△事業所安全管理組織の例

2. 6 管理者等の選任と職務

(職務の例として以下に記したが、各事業所の実態に即して定める。)

(1) 統括管理者等の選任

事業者は、毒物劇物の取扱いに係わる危害防止のため、資格を有するものから毒物劇物取扱責任者を選任する。また、毒物劇物取扱責任者を選任した場合は、遅滞なく三重県知事に届けなければならない。毒物劇物取扱責任者を変更した場合も同様とする。

ア. 事業者は、安全統括管理者の役割を担い、事業所内の安全の確保及び毒物劇物の取扱いに係わる危害防止に関し、事業所内を統括管理する。

イ. 事業者は、統括管理者の代理者を選任する。

ウ. 事業者は、輸送業務に携わる者を管理するため適格者の中から運行管理者を選任し安全及び毒物劇物の危害防止活動を管理監督させる。

エ. 事業者は、設備を管理し危害の発生を防止するため、適格者の中から整備管理者を選任し設備の整備・保全業務を管理監督させる。

(2) 統括管理者等の職務

統括管理者等の職務は次のとおりとする。

ア. 統括管理者及び代理者

事業所における毒物劇物の取扱いについての統括的な管理監督を行う。また代理者は統括管理者不在時に、その職務を代行する。

イ. 毒物劇物取扱責任者

毒物劇物取扱責任者は、職場の毒物又は劇物による保健衛生上の危害の防止のため、次の項目に掲げる業務を行う。

- (a) 製造施設等について、設備に関する法定の基準の遵守状況の点検及び管理
- (b) 品質、着色又は表示に関する法定の基準の遵守状況の点検
- (c) 取扱いに関する法定の基準の遵守状況の点検
- (d) 運搬に関する法定の基準の遵守状況の点検
- (e) 廃棄に関する法定の基準の遵守状況の点検
- (f) 毒物又は劇物が盗難に遭い又は紛失することを防ぐのに必要な措置を講じる。
- (g) 事故発生時の措置等
 - ・ 事故の拡大防止のための応急措置の実施
 - ・ 関係機関及び周辺等への連絡体制の確立
 - ・ 応急措置に必要な資機材等の配置、点検、管理
 - ・ 事故の原因調査及び再発防止のための措置の実施
- (h) 取扱い及び事故発生時の応急措置に関する従業員の教育、訓練の実施
- (i) 譲渡に係る業務日誌の作成
- (j) その他保健衛生上の危害防止に関する事項
- (k) 危害防止上必要な意見を、事業者意見具申すること

ウ. その他

事業者は、毒物劇物取扱責任者が不在時の場合を想定して、あらかじめ適格者の中から、その代理者を選任しておかなければならない。

2. 7 毒物劇物危害防止管理計画の実施

- (1) 事業者は、安全確保を図るため毒物劇物危害防止管理計画を適切、かつ継続的に実施する手順を定めるとともに、この手順に基づき、管理計画を適切かつ継続的に実施、及び運用するものとする。
- (2) 事業者は、毒物劇物危害防止管理計画を適切かつ継続的に実施するために必要な事項について従業員、及び関係者に周知させる手順を定めるとともに、この手順に基づき、安全衛生計画を適切かつ継続的に実施するために必要な事項をこれらの者に周知させるものとする。

第3章 安全管理

3. 1 安全管理

- (1) 事業者は、安全に関する基準類の整備を行い、毒物劇物取扱者に徹底させ、危害の防止に努めなければならない。
- (2) 事業者は、事業所の毒物劇物危害防止のために、安全管理計画を立案し、実行し、評価し、改善するサイクルを確立する。特に、取扱物質の安全データシート（SDS）を整備し、定期的に毒物劇物取扱者を教育し、徹底しなければならない。
- (3) 事業者は、毒物劇物の車両への荷役や積み降ろしに従事させる者に対し、毒物劇物

の飛散、流出、染み込み等がないように取り扱わせなければならない。

- (4) 事業者は、毒物劇物の車両への荷役や積み降ろしに従事させる者に対し、作業時は車両が移動しないようにハンドブレーキで固定するとともに、車止めを用いて移動しないように措置させる。
- (5) 事業者は、毒物劇物の輸送車両の運転者に対し、関係法令を遵守し運送時の安全運転に徹するように指導しなければならない。
- (6) 事業者は、毒物劇物の輸送車両の運転者に対し輸送に際し、毒物劇物の飛散・流出・浸出防止のため容器の健全性の確認や容器が確実に緊結されていることを確認させる。
- (7) 事業者は、事故等で毒物劇物が漏洩、飛散した場合は、周辺地域の危害が最小限となる処置方法を定期的に教育訓練させなければならない。
- (8) 事業者は、毒物劇物危害防止活動が法令や本規定を遵守し効果的に行われているかどうかを定期的に確認しなければならない。また、教育の修得度を確認し、不十分ならば再教育を行う。

3. 2 機器類の管理

事業者は、毒物劇物取扱施設（車両を含む）や機器・器具（以下「機器類」という）は、飛散、流出、浸出が発生しないように設備の材質、構造を定めるとともに、取扱方法及び保守点検などの必要事項を定めた基準を作成し、毒物劇物取扱者を教育し、周知させる。業務を委託する場合にあっても以下の基準を満たしていることを定期的に確認し、適正に業務がなされるように指導監督すること。また、その実施状況を毒物劇物取扱責任者に管理監督させなければならない。

(1) 機器類等の基準

ア. 使用する機器類は、飛散、流出、浸出がないようにするとともに、輸送による振動や交通事故により毒物劇物が漏洩しないような適正な構造と強度を有する材質であること。

イ. 毒物劇物が漏洩した場合を想定し、適切に対応するための最小限の処理資機材を備える。

(2) 貯蔵・保管設備の基準

ア. 毒物劇物を貯蔵、保管等する場所は、その他の物を貯蔵、陳列等する場所と明確に区分された毒物劇物専用のものであること。

イ. 敷地境界線から十分に離すこと。あるいは一般の人が容易に近づけない措置を講じること。

ウ. 毒物劇物とその他の物とを区分して貯蔵できるものであること。

エ. 毒物劇物を貯蔵するタンク、ドラム缶、その他の容器は、毒物又は劇物が飛散し、漏れ又は染み出る恐れのないものであること。

オ. 容器等を用いないで毒物又は劇物を貯蔵する設備は、毒物又は劇物が飛散し、地

下に染み込み、又は流れ出る恐れがないものであること。

カ. 毒物又は劇物を貯蔵する場所に鍵をかける設備があること。ただし、その場所が性質上鍵をかけることができないものであるときは、その周囲に、堅固な柵が設けてあること。

キ. 毒物劇物等の貯蔵場所の鍵及び表示の保守に関することを定め管理すること。

ク. 定期的に保管状況（品名、数量を含む）に異常のないことを確認する。

(3) 毒物劇物の表示

毒物劇物を貯蔵又は収納する容器及び毒物劇物を貯蔵、陳列等する場所へは、以下のように表示する。

ア. 貯蔵又は収納するための容器及び被包

(a) 毒物にあつては「医薬用外」の文字及び「毒物」の文字（赤字に白文字）

(b) 劇物にあつては「医薬用外」の文字及び「劇物」の文字（白地に赤文字）

イ. 販売又は授与のための容器及び被包

(a) 毒物劇物の名称

(b) 前号のア(a), (b)に定める事項

(c) 毒物劇物の成分及びその含有量

(d) 製造業者名及びその所在地

(e) その他法令に定められた事項

ウ. 貯蔵又は陳列する場所

(a) 毒物にあつては「医薬用外」の文字及び「毒物」の文字

(b) 劇物にあつては「医薬用外」の文字及び「劇物」の文字

3. 3 立ち入り制限

事業者は、荷役現場周辺には「関係者以外立ち入り禁止」の標識を掲示し、関係者以外は立ち入らせないようにしなければならない。

3. 4 盗難、紛失の防止

事業者は、毒物劇物による危害を防止するため、毒物劇物の保管場所等の維持管理に関する基準を作成し、遵守させなければならない。また、毒物劇物取扱責任者にその管理監督をさせなければならない。

ア. 保管庫は堅固な構造とし、容易に持ち運びができないようにする。

イ. 保管庫は施錠する。

ウ. 保管庫のある部屋は常に出入り口を施錠する。

エ. 車両等の運転に従事する者は、毒物劇物を積載した車両から盗難に遭わないよう及び紛失しないように施錠等を用いて管理する。

オ. 保管場所及び保管庫の管理者を定め、保管場所に氏名を掲示する。

- カ. 毒物劇物の品名及び数量を確実に管理し、定期的にそれを確認しなければならない。
- キ. 管理者は定期的に保管状況を確認し、毒物劇物取扱責任者に確認結果を報告する。

3. 5 飛散、流出防止

事業者は、毒物劇物による危害を防止するため、関係法令に従い毒物劇物の飛散、流出防止の措置を定め、事故・災害の未然防止に努めなければならない。

- ア. 毒物劇物の飛散、流出防止の措置をあらかじめ定める。
- イ. 関係先の連絡系統を確立し、事故・災害後は直ちに関係先に通報する。
- ウ. 毒物劇物の危害を防止するための保護具及び非常用工具を常備する。

3. 6 除害設備

毒物劇物統括管理者は、毒物劇物を含有する粉塵、ガス又は廃水の処理に必要な資機材を用意するとともに、毒物劇物が流出した場合に使用する保護具及び非常用工具を常備する。

3. 7 火気使用の制限

事業者は、毒物劇物による危害を防止するため、荷役現場や客先毒物劇物取扱施設内に客先管理者の許可なしに、火気を持ち込むことや、火気を無断で使用してはならない。また許可された場所以外で喫煙してはならない。

第4章 業務管理

4. 1 業務管理

事業者は、毒物劇物の取扱いや輸送時等の安全確保に関する必要事項を定めた業務基準を作成し、毒物劇物取扱者を教育し周知させなければならない。毒物劇物の保管、運搬等販売に関わる業務を外部に委託する場合は、法令を遵守し事業者が定めた基準に適合するよう、その役務範囲と責任を明確にして委託するとともに、定期的に確認し、適正に業務がなされるように指導監督すること。

(1) 基準は以下の内容を含んでいること

- ア. 毒物劇物取扱いに関する業務
- イ. 毒物劇物の施設等の運転、操作など
- ウ. 毒物劇物施設点検、整備
- エ. 設備工事に関する安全措置
- オ. 緊急時の措置に関する措置
- カ. その他、安全に関する必要な事項
- キ. 毒物劇物譲渡者との業務手順及び役務・責任範囲

(2) 毒物劇物の取扱いに関する作業手順は以下の事項を織り込み、作業毎に制定し、取

扱者に徹底しなければならない。

ア. 人体に対する影響と着用保護具

イ. 救急措置

ウ. 緊急連絡に関すること

エ. 緊急時の措置

- (3) 輸送する毒物劇物を車両に積載及び荷下ろしのため、他事業所の構内施設に立ち入る場合は、その施設の責任者の許可を得てから行うこと。
- (4) 毒物劇物の荷役に関する手順と責任範囲は、あらかじめ関係先と文書で取り決め、相互に安全性を確認して相互の責任者の承認を得てから取り扱うこと。
- (5) 事業者は、毒物劇物取扱者に対して、作業の状況により適切な保護具を着用させなければならない。
- (6) 事業者は、毒物劇物の保管、運搬等に関わる業務を外部に委託する場合は、法令を遵守し事業者が定めた基準に適合するよう、その役務範囲と責任を文書で取り決めてから委託するとともに、定期的を確認し、適正に業務がなされるように指導監督すること。

4. 2 毒物劇物施設等の点検

事業者は、毒物劇物取扱施設及び機器類を適性に維持管理させなければならない。業務を委託する場合にあっても以下の基準を満たしていることを定期的を確認し、適正な業務がなされるように指導監督すること。毒物取扱責任者はその実施状況を管理監督し必要事項を指示しなければならない。

- (1) 設備及び機器類を適性に維持管理するための点検は以下のとおりである。
 - ア. 日常点検：稼働中に点検を行う。
 - イ. 定期点検：定期的に周期を決めて行う点検。装置を停止して行うものもある。
 - ウ. 法定点検：関係法令に基づいて行う点検検査を行う。
- (2) 点検の結果、異常が発見された場合は速やかに整備管理者に報告する。
- (3) 整備を行う者は、速やかに補修、その他の適切な改善措置を講じる。
- (4) 毒物劇物施設等の点検結果及びその措置状況を記録し、その設備を管理する責任者の確認を経て、毒物劇物取扱責任者に報告の後、保管する。

4. 3 毒物劇物施設等の管理

事業者は、毒物劇物施設等の設備及び機器類を適性に維持管理させるため、管理責任者を定め管理させなければならない。

- (1) 毒物劇物施設等の機器類は正常に機能するよう維持管理する。
- (2) 毒物劇物施設は5S (Seiri、Seiton、Seibi、Seisou、Sitsuke) の確保に努め、不要なものは置かないこと。

- (3) 毒物劇物が飛散又は漏洩しないようにすること。
- (4) 毒物劇物の盗難又は紛失を防止するため、使用量及び貯蔵数量の点検確認を行うこと。
- (5) 毒物劇物を収納する容器には、飲食物の容器として使用されるものは使用しないこと。
- (6) 貯蔵設備の周囲に防液堤がある場合、雨水の水抜き弁は常に閉止しておくとともに、当該防液堤に雨水が滞留している場合はその水質に異常がないことを確認してから排水すること。

4. 4 廃棄基準

事業者は、毒物劇物を安全に処理するため、廃棄の基準を作成し、毒物劇物の取扱者を教育し、周知させなければならない。業務を委託する場合にあっても定めた基準を満たしていることを定期的に確認し、適正な業務がなされるように指導監督すること。廃棄する場合には流出、漏洩等により、環境を悪化させることがないようにする。毒物劇物及びそれを収納した容器又は被包を廃棄する場合は以下のように行う。

- (1) 事業者は毒物劇物の廃棄に際しては、予め廃棄計画を立案し、その作業責任者を定めること。
- (2) 作業責任者は当該廃棄に対して十分な知識と経験を有する者を選任すること
- (3) 作業計画は周囲の環境に配慮し、法令及び環境汚染がないよう環境関係法令等を遵守すること。

第5章 物流

5. 1 運搬

事業者は、毒物劇物の運搬に関する危害を防止するため、車両による運搬に際しては、次の事項を確認して従事させる。業務を委託する場合にあっても定めた基準に適合していることを定期的に確認し、適正な業務がなされるように指導監督すること。

- (1) 容器又は被包の使用
 - ア. 毒物劇物が容器又は被包に収納され、密閉されていること。
 - イ. 1回につき1トン以上運搬する場合、容器又は被包の外部にその毒物劇物の名称、成分の表示がなされていること。
- (2) 積載の方法
 - ア. 容器又は被包は落下、転倒、破損しないよう積載すること。
 - イ. 容器又は被包は積載車両の長さ及び幅を越えないこと。
 - ウ. 毒物劇物の車両による荷役時は、車両の移動を防止するため車両の移動を防止する措置を講じて行う。
- (3) 省令別表第2に掲げる毒物劇物を1回につき5,000kg以上運搬する場合の処置

- ア. 法令で定める時間を超えて運搬する場合は、車両一台につき運転者のほか交替して運転する者又は助手を同乗させる。
 - イ. 車両には、省令で定める標識を掲げる。
 - ウ. 車両には、防毒マスク、ゴム手袋など事故時の応急措置に省令で定める必要な保護具を二人分以上備える。
 - エ. 車両には、運搬する毒物劇物の名称、成分及び含量、事故時に行う応急措置の内容を記載した書面を備える。
- (4) 荷送人の通知
- 毒物劇物の運搬を運送業者等に委託する場合であって、1回の運搬数量が1,000kgのときは、運送人に対し、当該毒物又は劇物の名称、成分及びその含量並びに数量並びに事故の際に講じなければならない応急の措置の内容を記載した書面を提出する。
- (4) 運搬の方法
- ア. 毒物劇物及び運送上の関係法令を遵守し安全運転を行うこと。
 - イ. 運搬ルートは法令で禁止されているルートでないことを確認する。
(指定されたトンネル等)
 - ウ. 毒物劇物が漏洩した場合を想定して被害が最小限となるルートを選定する。
 - エ. 交替して運転する者又は助手を確保していること。
 - オ. 車両に「毒」の標示板を掲げていること。
 - カ. 事故時の応急措置等を記載した「緊急時の措置要領(イエローカード)」を運転する者に交付するとともに、周知徹底すること。
 - キ. 運搬する毒物劇物が持ち去られないように厳重に管理する。
 - ク. 毒物劇物被譲渡者の敷地内に搬入する場合は、法令を遵守するほか毒物劇物譲渡者の規定により行うこと。
 - ケ. 毒物劇物を毒物劇物被譲渡者に引き渡す場合は品名及び数量を相互に確認すること。

第6章 事故発生時等の措置

6. 1 関係機関への届出

事業者は、次の事象が発生した場合、その状況を速やかに消防署、保健所又は警察署に届出るとともに、保健衛生上の危害を防止するために必要な措置を講じなければならない。また毒物劇物を取り扱う者に対して必要な処置を行えるように周知徹底しなければならない。

- (1) 毒物劇物の飛散、流出等保健衛生上の危害が生じる恐れのあるとき。
- (2) 毒物劇物の盗難又は紛失時。
- (3) 火災、爆発、可燃物の漏洩や流出及び環境に重大な影響を及ぼす恐れなどが生じた場合

6. 2 事故発生時の連絡等

事業者は、事故や災害及び危害の発生などの異常な事象（以降「異常」という）が発生した場合の措置について基準を作成し、関係者に徹底させなければならない。毒物劇物取扱者に対しては必要な処置が行えるよう定期的に訓練させなければならない。

- (1) 事業所内における異常の事態が生じた場合は、この基準に従い措置する。
- (2) 構外（車両による運搬中）における事故の場合は、直ちに消防署、保健所又は警察署及び荷送人に連絡し、その指示を受けるとともに、次の措置を講ずる。なお、具体的な措置は毒物劇物の種類毎に作成されたイエローカードによる。

ア. 漏洩時の措置

毒物劇物による毒性を充分認識の上、まず漏えいを止める措置を講ずる。

イ. 出火時の措置

可燃性物質が漏えい、出火した際は毒性を十分認識の上、消火活動を行う。

ウ. 保護具

ゴム手袋、長靴、保護衣等それぞれの特性に応じ、必要なものを使用する。

エ. 応急措置

- (a) 通行人、付近住民への火気使用の禁止、風上への避難等の協力依頼を行う。
- (b) 暴露又は接触した際は、直ちに水洗する。

オ. その他

車両は、毒物劇物の特性に応じ必要な保護具、消火器等を備える。

第7章 事故調査

事業者は、事故等が発生した場合は、迅速かつ適切に調査できるシステムを確立しておかなければならない。事故調査及び報告にあたっては、事故の原因を明らかにし、原因となった事項の是正処置を調査検討する。事業者は、再発防止対策を策定して、速やかに計画を立て実施しなければならない。また、その実施状況等を確認する。

7. 1 事故の調査・報告

事業者は速やかに事故調査に適切なメンバーからなる調査チーム編成し、事故調査にあたらせる。

- (1) 事故調査チームは事故の原因とその是正措置を明らかにして 事業者に報告し、承認を得る。
- (2) 事業者は、事故報告書を関係者に周知し、教育を行うこと。
- (3) 事業者は、事故の原因となった事項の是正を指示し、是正措置を行わせるとともに、再発防止対策を策定して計画的に実施し、その結果を確認する。

7. 2 情報の管理と活用

- (1) 事故報告書は、速やかに事業所の毒劇物取扱者全員に周知し、類似事故の未然防止を図ること。
- (2) 事故情報は、事業所内の情報のみならず、社外の関連情報を整理蓄積し共有化を図るとともに、毒物劇物取扱者の教育に活用すること。
- (3) 事故情報は、定期的に分析して類似事故防止の知見を解析し、活用を図ること。

第8章 教育・訓練

8. 1 教育及び訓練

- (1) 事業者は、毒物劇物の危害を防止するため、必要事項を「年間教育研修計画」に盛り込み、毒物劇物取扱者の教育及び訓練を行わせ、その修得状況を把握し一定のレベル以上の知識・技能を有するように管理し、一定レベル以上の修得状況を保つように、しなければならない。教育の内容は次の項目を含めなければならない。
 - ア. 関係法令及び社内規定
 - イ. 毒物劇物の危険性及びその取扱方法
 - ウ. 毒物劇物の廃棄の方法
 - エ. 事故発生時の想定訓練（連絡及び事故時の措置等を含む）
 - オ. 事故発生の原因とその対策
 - カ. その他保健衛生上必要な事項
- (2) 事業者は、自ら又は事業所の者を、社外で開催される毒物劇物関係の研修会に積極的に参加させなければならない。

第9章 文書化と記録及び保管

9. 1 文書化

事業者は、危害防止に関して、従業員、協力会社及びその他の関係者に周知させるために、必要な事項を文書化し、継承しなければならない。また、文書化する手順を定めるとともに、文書は最新版に基づき管理しなければならない。

9. 2 記録及び保管

事業者は、毒物劇物の危害防止活動を円滑に推進し、実効あるものとするため、活動実施及び運用に関して必要な事項を定め、記録する。

- (1) 活動方針及び管理方針に関すること
- (2) 貯蔵陳列等されている毒物劇物は管理簿等で定期的に確認する（品名、数量、被譲渡者等）。
- (3) 法令及び規定類
- (4) 異常時及び改善に関すること

- (5) 教育計画及び実施に関すること
- (6) 監査に関すること
- (7) その他危害防止に関わる活動に関すること

これらを確実にフォロー出来るように整備し、その実施状況等を記録保管しなければならない。

第10章 監査

10. 1 監査計画の立案と実施

事業者は、定期的な監査計画を作成し、監査を実施する手順等を定めるとともに、この手順に基づき、事業者を含めた監査を実施し、監査の結果、不適合と認めるときは、管理システムの実施及び運用に関しての改善を行い、計画的に実施させる。また、事業者は、危害防止活動のPDCAサイクルが問題なく機能している事を定期的に評価確認し、定めた目標を達成しなければならない。

保管や運搬等に関わる業務等を外部に委託した場合には、その業務が事業者の定める基準に適合している事を定期的に確認し、適正な業務がなされるように指導監督しなければならない。

付 則

1. 承認者

この規定の制定・改定・廃止は□□（社長又は事業所長）の承認によって行う。

2. 責任者

この規定の内容及び制定・改定・廃止手続きについては○○（規定の改廃の担当部署の責任者）は毒物劇物取扱責任者の確認を経て作成し、その責を負う。

3. 実施日

この規定の実施日は、改定経歴表に記載された日とする。

チェックリスト(輸送業)

危害防止規定の章	危害防止規定の項目	着眼点	*	チェックリスト	確認		
第1章 総則	目的	規定の策定と遵守	<input type="checkbox"/>	危害防止規定を定めているか。	<input type="checkbox"/>		
			<input type="checkbox"/>	△ 危害防止規定の策定には事業者及び従業員が参画しているか。	<input type="checkbox"/>		
			<input type="checkbox"/>	△ 危害防止規定には法令で示された必要な事項をすべて盛り込んでいるか。	<input type="checkbox"/>		
			<input type="checkbox"/>	△ 危害防止規定の遵守状況を確認しているか。	<input type="checkbox"/>		
			<input type="checkbox"/>	理念	<input type="checkbox"/>	危害防止に関する事業者の理念を明確に定めているか。	<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>	基本方針	<input type="checkbox"/>	危害防止に関する事業者の基本方針を明確に定めているか。	<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	危害防止に関する基本方針に法令等の遵守を盛り込んでいるか。	<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>	周知徹底	<input type="checkbox"/>	危害防止に関する理念・基本方針を全従業員に周知徹底しているか。	<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>	P D C A サイクル	<input type="checkbox"/>	危害防止に関する理念・基本方針を定期的に見直ししているか。	<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	危害防止に関する活動計画の実施状況等の評価結果を、危害防止に関する理念・基本方針に反映しているか。	<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>	事業者の責務	<input type="checkbox"/>	事業者自らが自社の危害防止に対する理念・基本方針を示しているか。	<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	事業者は、危害防止に関する最高責任者として責務を果たしているか。	<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	事業者は、自社の危害要因の実態を認識しているか。	<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	事業者は、地域社会の安全、安心、環境等の重要性について認識しているか。	<input type="checkbox"/>
第2章 安全管理体制等	毒物劇物の管理方針 毒物劇物の管理目標の設定	目標と計画 管理目標の設定	<input checked="" type="checkbox"/>	事業者長は毒物劇物管理方針を定めているか。	<input type="checkbox"/>		
			<input type="checkbox"/>	管理目標は理念・基本方針を反映しているか。	<input type="checkbox"/>		
			<input type="checkbox"/>	目標・計画どおりに改善を実施しているか。	<input type="checkbox"/>		
	危害要因の特定とリスクの低減	危害要因	<input checked="" type="checkbox"/>	年間毒物劇物管理計画を定めているか。	<input type="checkbox"/>		
			<input type="checkbox"/>	危険性物質の貯蔵・取扱量を把握しているか。	<input type="checkbox"/>		
			<input type="checkbox"/>	△ 事業所の危害要因を具体的に説明できるか。	<input type="checkbox"/>		
			<input type="checkbox"/>	△ 事業所における設備や毒物劇物等の化学物質等の危害要因を特定する手順を定めているか。	<input type="checkbox"/>		
			<input type="checkbox"/>	△ 輸送ルートの地形、交通量、人口密度等、環境面からのリスクを考慮しているか。	<input type="checkbox"/>		
			<input type="checkbox"/>	◆ 購入者の使用目的は明確で安全に使用される事業所又は人物か。	<input type="checkbox"/>		
			<input type="checkbox"/>	◆ 新規の購入者の身元は明確か。	<input type="checkbox"/>		
			<input type="checkbox"/>	△ 安全データシート(SDS)を備え、誰もがいつでも閲覧できるようにしているか。	<input type="checkbox"/>		
			リスク低減	<input checked="" type="checkbox"/>	事業所から毒物劇物の盗難紛失に対するリスクを考慮したか。	<input type="checkbox"/>	
				<input checked="" type="checkbox"/>	事業所から毒物劇物授与者に引き渡す際の安全化授与の仕方(引き渡し方法、運搬ルート等)を検討したか。	<input type="checkbox"/>	
				<input checked="" type="checkbox"/>	毒物劇物の貯蔵、保管から生ずるリスクを検討したか。	<input type="checkbox"/>	
				<input type="checkbox"/>	△ 国内外の事故・トラブル事例を入手した場合は、同類事故・トラブルの発生の危険性がないか確認しているか。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/>	◇ 毒物劇物の暴露による人体や動植物の危害防止対策が図られているか。		<input type="checkbox"/>			
	<input type="checkbox"/>	◇ 緊急時(漏洩、流出、災害・火災・流失時等)の措置に関する対策を立てているか。		<input type="checkbox"/>			
	<input type="checkbox"/>	◇ 毒物劇物の漏洩や火災、爆発等の発生があった場合の対策を立てているか。		<input type="checkbox"/>			
	<input type="checkbox"/>	◇ 毒物劇物を取り扱うことによって生じるリスクを想定し、安全対策を取っているか。(リスク管理)		<input type="checkbox"/>			
	<input type="checkbox"/>	◇ 危害を被った負傷者の応急処置、病院搬送の措置対応は講じられているか。		<input type="checkbox"/>			
	管理計画と安全管理組織	目標設定		<input type="checkbox"/>	目標・計画に具体的な実施内容を明示しているか。	<input type="checkbox"/>	
				<input type="checkbox"/>	△ 各基準類の改廃は基準どおりの手続きで行われているか。	<input type="checkbox"/>	
			<input type="checkbox"/>	△ 目標・計画の進捗状況を管理しているか。(どこの部署が管理しているか、責任者は誰か。)	<input type="checkbox"/>		
			<input type="checkbox"/>	△ 危害防止管理計画の進捗状況が記録され、営業者等の承認を受けているか。	<input type="checkbox"/>		
			<input type="checkbox"/>	△ 目標・計画の作成にあたり、従業員の意見を反映しているか。	<input type="checkbox"/>		
			<input type="checkbox"/>	△ 改善事項を定期的に確認しているか。	<input type="checkbox"/>		
			<input type="checkbox"/>	△ 目標・計画を関係部署の従業員に周知・理解させているか。	<input type="checkbox"/>		
			管理組織	<input type="checkbox"/>	目標・計画の進捗状況を管理しているか。(どこの部署が管理しているか、責任者は誰か。)	<input type="checkbox"/>	
				<input type="checkbox"/>	△ 安全管理組織を編成しているか。	<input type="checkbox"/>	
				<input checked="" type="checkbox"/>	管理組織構成者に役割と責任を理解させているか。	<input type="checkbox"/>	
	法の遵守	<input checked="" type="checkbox"/>	遵守すべき法令は従業員に周知されているか。	<input type="checkbox"/>			
		<input type="checkbox"/>	△ 安全管理組織は管理責任が明確になっており、その責任を果たしているか。	<input type="checkbox"/>			
		<input type="checkbox"/>	△ 毒物及び劇物取締法に定められた責任者等は官庁に届けられているか。	<input type="checkbox"/>			
<input type="checkbox"/>		△ 当該事業所に適用される法律は明確になっているか。	<input type="checkbox"/>				
<input type="checkbox"/>		△ 当該事業所に適用される法律を遵守した法定管理者及び責任者は関係官庁に届け出ているか。	<input type="checkbox"/>				
<input checked="" type="checkbox"/>		取扱者の法的責任を理解しているか。	<input type="checkbox"/>				
<input checked="" type="checkbox"/>		責任者は定期的に遵守すべき事項(法で定められた)の確認を行い、事業者はその結果を報告しているか。	<input type="checkbox"/>				

チェックリスト(輸送業)

危害防止規定の章	危害防止規定の項目	着眼点	*	チェックリスト	確認	
第3章 安全管理	安全管理	基準の策定	△	毒物劇物危害防止に関する基準類はどのような基準が策定されているか。(基準の体系とその具体的基準を提示する。)	<input type="checkbox"/>	
			□	毒物劇物の取扱いや各作業(実験を含む。)に関する作業手順は安全性、確実性を優先して、運転操作・作業の遵守・注意事項を定めているか。	<input type="checkbox"/>	
			△	基準類の制定、改訂、廃止等や承認手続きの手順は定めてあるか。	<input type="checkbox"/>	
			△	取扱物質の安全データシート(SDS)は全物質が整備されているか。どのように管理されているか。	<input type="checkbox"/>	
			◆	取扱物質の安全データシート(SDS)は従業員がいつでも閲覧できるようにしてあるか。	<input type="checkbox"/>	
			■	作業に必要な業務手順は定めてあるか。	<input type="checkbox"/>	
			△	安全データシート(SDS)は最新版にしてあるか。入手手順と改訂手順は明確になっているか。	<input type="checkbox"/>	
			◇	安全な作業を遂行するために、基準類の実践を指導しているか。(総合的)	<input type="checkbox"/>	
			日常管理	■	毒物劇物を輸送する場合、容器が落下しないよう措置を講じているか。	<input type="checkbox"/>
				■	毒物劇物を輸送するとき容器が破損しないよう措置を講じているか。	<input type="checkbox"/>
		■		毒物劇物を積載した車両から離れる場合施錠しているか。	<input type="checkbox"/>	
		■		毒物劇物の輸送開始前に品名・数量を帳簿と照合しているか。	<input type="checkbox"/>	
		■		毒物劇物を輸送するとき容器を車両荷台にワイヤー・ロープ等で十分に緊結しているか。	<input type="checkbox"/>	
		■		毒物劇物の輸送開始前の安全点検を実施しているか。	<input type="checkbox"/>	
		■		毒物劇物の輸送時に安全運転をしているか。	<input type="checkbox"/>	
		■		毒物劇物を輸送するとき容器に問題がないことを事前に確認しているか。	<input type="checkbox"/>	
		■		毒物劇物貯蔵設備・容器の日常及び定期点検基準はあるか。	<input type="checkbox"/>	
		■		毒物劇物輸送車両の日常及び定期点検基準はあるか。	<input type="checkbox"/>	
		■		毒物劇物貯蔵設備・容器の日常及び定期点検のやり方を教育しているか。	<input type="checkbox"/>	
		■		毒物劇物の輸送方法を実践的に指導しているか。	<input type="checkbox"/>	
		■		毒物劇物運搬・輸送車両の安全運転方法を実践的に指導しているか。	<input type="checkbox"/>	
		■		道路走行中は車間距離を十分にとっているか。	<input type="checkbox"/>	
		■		毒物劇物の輸送を要領どおり実施しているか。	<input type="checkbox"/>	
		■		作業開始前の作業環境安全確認を実施しているか。	<input type="checkbox"/>	
		■		始業前の危険予知は実施され安全を確認しているか。	<input type="checkbox"/>	
		■		安全な運転・作業を遂行するために、定期的に作業要領の実施状況を確認しているか。(総合的)	<input type="checkbox"/>	
		■		安全確保のための定期巡回・点検を実施しているか。	<input type="checkbox"/>	
		■		管理者は定期的に遵守すべき事項(法で定められた)の確認を行い、事業者はその結果を報告しているか。	<input type="checkbox"/>	
		■		始業前の危険予知は実施され安全を確認する習慣が定着しているか。	<input type="checkbox"/>	
		■		定期的に品名・数量の保管状況を確認しているか。	<input type="checkbox"/>	
		■		貯蔵・保管庫は毒物劇物専用のものか。	<input type="checkbox"/>	
		■		貯蔵・保管基準は定められているか。	<input type="checkbox"/>	
		■		貯蔵・保管庫は漏洩、流出、浸出、飛散しないように設計されているか。	<input type="checkbox"/>	
		■		機器・容器等の点検、検査基準は定めているか。	<input type="checkbox"/>	
		盗難・紛失防止		■	毒物劇物貯蔵所・保管庫に施錠しているか。	<input type="checkbox"/>
				■	貯蔵・保管庫の施錠管理の要領を定め実施しているか。	<input type="checkbox"/>
				■	貯蔵・保管庫は持ち運び出来ないよう固定してあるか。	<input type="checkbox"/>
				■	盗難、紛失等の対策は定められているか。	<input type="checkbox"/>
			■	運搬途中時、車両から離れるときの盗難防止対策を定めているか。	<input type="checkbox"/>	
			■	保管場所は監視体制が整っているか。	<input type="checkbox"/>	
			■	貯蔵・保管庫は盗難防止の管理がされているか。	<input type="checkbox"/>	
			■	毒物劇物貯蔵所・保管庫に施錠等の盗難防止措置を講じているか。	<input type="checkbox"/>	
			漏洩、流出防止	■	貯蔵・保管庫は漏洩、流出、浸出、飛散しないように設計されているか。	<input type="checkbox"/>
				■	漏洩・流出、飛散時の対策を定めているか。	<input type="checkbox"/>
		■		漏洩・流出時の対策は実施できたか。	<input type="checkbox"/>	
		■		漏洩・流出時、作業員の安全保護対策は整備されているか。	<input type="checkbox"/>	
		■		毒物劇物輸送配管は適切な材質及び強度で設計・製作・接続されているか。	<input type="checkbox"/>	
		■		適切な輸送設備を使用しているか。	<input type="checkbox"/>	
		■		使用すべき機器類は定められているか。	<input type="checkbox"/>	
		機器類の管理		■	機器・容器類の管理体制は整備されているか。	<input type="checkbox"/>
■	機器・容器類の設備管理の判断基準はあるか。			<input type="checkbox"/>		
◇	機器・容器類の変形や破損、漏洩の有無等を確認しているか。			<input type="checkbox"/>		
■	機器・容器類の不具合の処置方法を定め処置しているか。		<input type="checkbox"/>			
■	毒物劇物貯蔵設備・容器の洗浄方法を実践的に教育しているか。		<input type="checkbox"/>			
■	毒物劇物貯蔵設備・容器への毒物劇物受け入れ要領はあるか。		<input type="checkbox"/>			
■	毒物劇物容器に問題があるときには健全な容器に交換しているか。		<input type="checkbox"/>			
■	毒物劇物を貯蔵設備・容器に受け入れる場合は受け入れ能力以内で受け入れているか。		<input type="checkbox"/>			
■	毒物劇物を輸送する場合の要領は定められているか。		<input type="checkbox"/>			
■	毒物劇物貯蔵設備・容器の廃棄方法を教育しているか。		<input type="checkbox"/>			

チェックリスト(輸送業)

危害防止規定の章	危害防止規定の項目	着眼点	*	チェックリスト	確認
第4章 業務管理	業務	業務手順	■	毒物劇物の品名、数量、取引先等は記録され管理されているか。	<input type="checkbox"/>
			■	販売業務に関する業務手順書はあるか。	<input type="checkbox"/>
			◇	毒物劇物の保管、陳列品等は盗難されないような管理をしているか。	<input type="checkbox"/>
			■	小分け、詰め替え等の作業基準は定められているか。	<input type="checkbox"/>
			■	毒物劇物の品名、数量の確認者は決められていて定期的に確認しているか。	<input type="checkbox"/>
			■	荷受け後の手順を定めているか。	<input type="checkbox"/>
			■	機器・容器等の管理点検、検査を実施しているか。	<input type="checkbox"/>
		点検確認	■	機器・容器類の不具合の処置方法を定め処置しているか。	<input type="checkbox"/>
			■	毒物劇物輸送車両の日常及び定期点検を実施しているか。	<input type="checkbox"/>
			■	毒物劇物貯蔵設備・容器の日常及び定期点検が実施されていることを確認しているか。	<input type="checkbox"/>
			■	毒物劇物輸送車両の日常及び定期点検が実施されていることを確認しているか。	<input type="checkbox"/>
			◇	設備・機器類からの漏洩はないか定期的に点検しているか。	<input type="checkbox"/>
			◇	保護具着用が遵守されていることを現場現物で確認しているか。	<input type="checkbox"/>
			■	外部に委託している業務は法や定めた基準を遵守し適正に行われていることを定期的に確認しているか。	<input type="checkbox"/>
外部委託	◆	外部委託業務は契約書を締結し、業務範囲、責任は明確になっているか。	<input type="checkbox"/>		
	■	外部に委託している業務は変更管理が適正に行われていることを定期的に確認しているか。	<input type="checkbox"/>		
第5章 物流	物流	物流	■	運搬作業基準(荷物、数量、届け出先、荷物緊結、車止、盗難防止等)は定められているか。	<input type="checkbox"/>
			■	運搬作業前・後の客先、荷物品名、数量の確認をしたか。	<input type="checkbox"/>
			■	運搬途中での荷役品の品名、数量の確認をしているか。	<input type="checkbox"/>
			■	搬送中に振動による接続部の緩み等が起こらないよう養生しているか。	<input type="checkbox"/>
			■	輸入品荷受の時に割れ、漏洩等の異常がないことを確認しているか。	<input type="checkbox"/>
			◆	搬送者はエラーカードを理解しているか。	<input type="checkbox"/>
			◆	搬送者は毒物劇物の入荷、出荷作業を理解しているか。	<input type="checkbox"/>
			◆	車両には定められた標識が付けてあるか。緊急時に使用する定められた備品が備え付けられているか。	<input type="checkbox"/>
			◆	運搬経路の安全性を確認したか。	<input type="checkbox"/>
			■	毒物劇物が公共場所へ漏洩、流出が発生した際の応急措置と連絡体制を定めているか。	<input type="checkbox"/>
			■	漏洩・流出時の連絡体制は確立しているか。	<input type="checkbox"/>
△	異常事態を想定した体制は組織されているか。	<input type="checkbox"/>			
◇	所外流出の不測事態を想定し、対応措置を呈示しているか。(公道、河川、海上、大気)	<input type="checkbox"/>			
△	異常事態を想定した訓練は定期的実施され、訓練結果を評価し、改善が図られているか。	<input type="checkbox"/>			
△	異常事態を想定し、報道関係者や地元広報活動の訓練を定期的に行っているか。	<input type="checkbox"/>			
△	異常事態を想定し、必要な資機材を整備し、定期的に点検整備しているか。	<input type="checkbox"/>			
△	自然災害発生時に事業所内で事故が発生した場合の想定訓練をしているか。	<input type="checkbox"/>			
第7章 事故調査			<input type="checkbox"/>	事故調査を行っているか。	<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>	事例の横展開を行っているか。	<input type="checkbox"/>
			◆	類似事例の再発防止対策を確認しているか。	<input type="checkbox"/>
第8章 教育訓練	教育・訓練	教育計画	■	年間教育管理計画を定めているか。	<input type="checkbox"/>
			△	年間教育研修計画は事業所の関係法令を満足する教育計画となっているか。策定された教育計画は事業所全員に周知されているか。	<input type="checkbox"/>
			△	従業員毎に研修すべき科目が明確になっているか。履修記録はあるか。	<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>	新入社員(転入者)の安全教育・訓練を実施しているか。	<input type="checkbox"/>
			■	毒物劇物の取扱いの危険性、遵守、注意事項等について教育しているか。	<input type="checkbox"/>
			■	法律や社内規定の周知、教育がなされているか。	<input type="checkbox"/>
			<input type="checkbox"/>	事業所内の従業員に対し、安全の確保に関する理念・基本方針の周知を図っているか。	<input type="checkbox"/>
			■	漏洩、流出、浸出、飛散等の異常時に関する教育訓練を定期的に行っているか。	<input type="checkbox"/>
			◇	毒性、薬傷等による危害に関する基本的な安全教育を実施しているか。	<input type="checkbox"/>
			◇	保護具の装着訓練を実施しているか。	<input type="checkbox"/>
			◇	保護具の着用を定め、作業員に指導・教育を行っているか。(保護面、手袋、安全带等)	<input type="checkbox"/>
			■	社外の教育研修に参加しているか。	<input type="checkbox"/>
			第9章 文書化と記録及び保管	文書化	文書化
△	基準類の改訂経歴はあるか。現在使用されている基準類は最新版となっているか。	<input type="checkbox"/>			
■	危害防止の活動方針、計画は文書化され周知されているか。	<input type="checkbox"/>			
■	規定類や法令は文書化され周知されているか。	<input type="checkbox"/>			
■	毒物劇物の品名、数量、授与先は記録され定期的に確認されているか。	<input type="checkbox"/>			
	記録及び保管	記録及び保管			

チェックリスト(輸送業)

危害防止規定の章	危害防止規定の項目	着眼点	*	チェックリスト	確認
第10章 監査	計画の立案と実施	計画	△	監査の手順は決められているか。(審査員、実施計画、実施記録、是正報告)	<input type="checkbox"/>
			■	監査計画を定めているか。	<input type="checkbox"/>
			△	監査結果の不具合事項は適切に是正され、改善が実施されていることを定期的に確認しているか。	<input type="checkbox"/>
			□	改善指摘事項を監査対象、営業者(社長又は事業所長)及び関係箇所に周知徹底しているか。	<input type="checkbox"/>
			□	営業者は、監査結果の報告を受け、把握しているか。	<input type="checkbox"/>
		マネジメントレビュー	□	営業者に対する改善勧告を行っているか。	<input type="checkbox"/>
			■	事業所長は毒物劇物管理状況の監査を実施しているか。	<input type="checkbox"/>
			■	事業所長は毒物劇物管理状況の監査の結果を評価し改善するよう指示しているか。	<input type="checkbox"/>

- * □ 印は、参考文献：1)危険性評価方法(チェックリスト方式)を引用し、一部を加筆修正した。
 ◇ 印は、参考文献：2)化学品製造業チェックリスト(A-B:E;簡易版)を引用し、一部を加筆修正した。
 △ 印は、危害防止規定の策定に際し、規定の内容等に漏れがないようにするため、追加した。
 ■ 印は、輸送業の事例から創生したチェックリスト

着眼点とは、規定を作成する場合、参考となる事項をキーポイントとして記載した。

参考文献

- 1) (財)全国危険物安全協会：「危険性評価方法(チェックリスト方式)」(2007)
- 2) 長谷川和俊、大野晋、関谷正明：「毒物劇物の事例解析に基づく安全管理創生に関する研究」平成18年度研究報告(H17-化学一般-005)厚生労働省研究補助金 化学物質リスク研究事業(2007)

II 參考資料

○毒物劇物取扱責任者の業務について

(昭和五〇年七月三一日)

(薬発第六六八号)

(各都道府県知事あて厚生省薬務局長通達)

毒物劇物営業者等に対する指導取締りについては従来より格別の御配慮を煩わしているところであるが、毒物劇物取扱責任者の業務を明確にすることにより毒物劇物の取扱いの適正化を図るため、今般、毒物劇物取扱責任者が行う業務内容を別添のとおり定めたので、貴職におかれてはかかる趣旨を御了知をうえ、左記事項に留意し、貴管下毒物劇物営業者、毒物劇物取扱責任者等に対し周知徹底されるよう特段の御配慮をお願いする。

なお、毒物劇物営業者等の監視取締りについては、昭和五〇年四月一日薬発第三〇一号薬務局長通知「毒物劇物監視要領の制定について」を参照されたい。

記

- 一 毒物劇物取扱責任者は、毒物及び劇物取締法(昭和二五年法律第三〇三号。以下「法」という。)第七条において、毒物又は劇物による危害の防止に当るものと規定されているが、別添の「毒物劇物取扱責任者の業務について」は、毒物劇物取扱責任者がその業務を果すうえで必要かつ基本的な事項を具体的に定めたものであること。
- 二 別添の「毒物劇物取扱責任者の業務について」掲げる事項は、毒物劇物取扱責任者が製造所、営業所、店舗その他の事業場における毒物劇物の取扱いについて、総括的に管理、監督すべき事項として定めたものであり、毒物劇物取扱責任者自らが直接これらの事項の実施に従事することを義務付けたものではなく、その責任と指揮、監督のもとに、他の者に行わせても差し支えないこと。
- 三 毒物劇物取扱責任者がその業務を円滑に遂行できるよう、常時、当該製造所等に勤務し、かつ、適切な権限を有する者を毒物劇物取扱責任者として指名すると共に、当該製造所等に係る毒物劇物危害防止規定を作成し、当該製造所等における毒物及び劇物の管理、責任体制を明確にするよう毒物劇物営業者等を指導すること。

別添

毒物劇物取扱責任者の業務について

一 製造作業場所等について

製造作業場所、貯蔵設備、陳列場所及び運搬用具について、毒物及び劇物取締法施行規則(昭和二六年厚生省令第四号)第四条の四の規定の遵守状況点検、管理に関すること。

二 表示、着色等について

法第三条の二第九項、第一二条、第一三条及び第一三条の二の規定の遵守状況の点検に関すること。

三 取扱いについて

法第一条第一項、第二項及び第四項の規定の遵守状況の点検に関すること。

四 運搬、廃棄に関する技術上の基準について

(一) 運搬に関する法第一条第三項及び法第一六条第一項の規定に基づき政令で定める技術上の基準への適合状況の点検に関すること。

(二) 廃棄に関する法第一五条の二の規定に基づき政令で定める技術上の基準への適合状況の点検に関すること。

五 事故時の措置等について

(一) 事故時の応急措置に必要な設備器材等の配備、点検及び管理に関すること。

(二) 当該製造所等と周辺事務所等との間の事故処理体制及び事故時の応急措置の連絡に関すること。

(三) 事故時の保健所等への届出及び事故の拡大防止のための応急措置の実施に関すること。

(四) 事故の原因調査及び事故の再発防止のための措置の実施に関すること。

六 その他

(一) 毒物劇物の取扱い及び事故時の応急措置方法等に関する従業員の教育及び訓練に関すること。

(二) 業務日誌の作成に関すること。

(三) その他保健衛生上の危害防止に関すること。

○毒物劇物危害防止規定について

(昭和五〇年十一月六日)

(薬安第八〇号・薬監第一三四号)

(各都道府県衛生主管部(局)長あて厚生省薬務局安全・監視指導課長連名通知)

毒物劇物営業者等の作成する毒物劇物危害防止規定(以下「危害防止規定」という。)については、昭和五十年七月三十一日薬発第六六八号「毒物劇物取扱責任者の業務について」をもつて通知したところであるが、その作成にあたっては、左記の点に御留意のうえ、遺憾のないよう指導方願います。

記

1 危害防止規定の目的及び性格について

危害防止規定は、毒物劇物製造所等における毒物又は劇物の管理・責任体制を明確にし、もつて毒物又は劇物による保健衛生上の危害を未然に防止することをねらいとした、事業者の自主的な規範であること。

2 危害防止規定の記載事項について

(1) 危害防止規定は、当該製造所等において取扱われる毒物及び劇物の種類・量、取扱いの方法等の態様に応じ、具体的、かつ、詳細な内容になるように作成すること。

なお、毒物及び劇物の運搬車など製造所等以外の事項にわたる内容であっても差し支えないこと。

(2) 危害防止規定の記載事項には、毒物及び劇物の管理・責任体制を明確にし、毒物及び劇物による危害防止の目的を達成しうるよう、左記の基本的な事項が記載されていなければならないこと。

なお、危害防止規定に付随してそれぞれの基本的事項について、規定を具体的に実施するために必要な細則を定めること。

ア 毒物及び劇物の貯蔵又は取扱いの作業を行う者、これらの作業に係る設備等の点検・保守を行う者、事故時における関係機関への通報及び応急措置を行う者の職務及び組織に関する事項

イ 毒物及び劇物の貯蔵又は取扱いに係る作業の方法に関する事項

ウ 毒物及び劇物の貯蔵又は取扱いに係る設備等の点検の方法に関する事項

エ 毒物及び劇物の貯蔵又は取扱いに係る設備等の整備又は補修に関する事項

オ 事故時における関係機関への通報及び応急措置活動に関する事項

カ 毒物及び劇物の貯蔵又は取扱いの作業を行う者及びこれらの作業に係る設備等の保守を行う者並びに事故時の応急措置を行う者の教育及び訓練に関する事項

キ その他、保健衛生上の危害を防止するために遵守しなければならない事項

毒物劇物危害防止規定モデル

令和2年3月発行

三重県医療保健部

薬務感染症対策課

〒514-8570 津市広明町13番地

電話 059-224-2330

FAX 059-224-2344